

平成 29 年度の海部会の活動計画

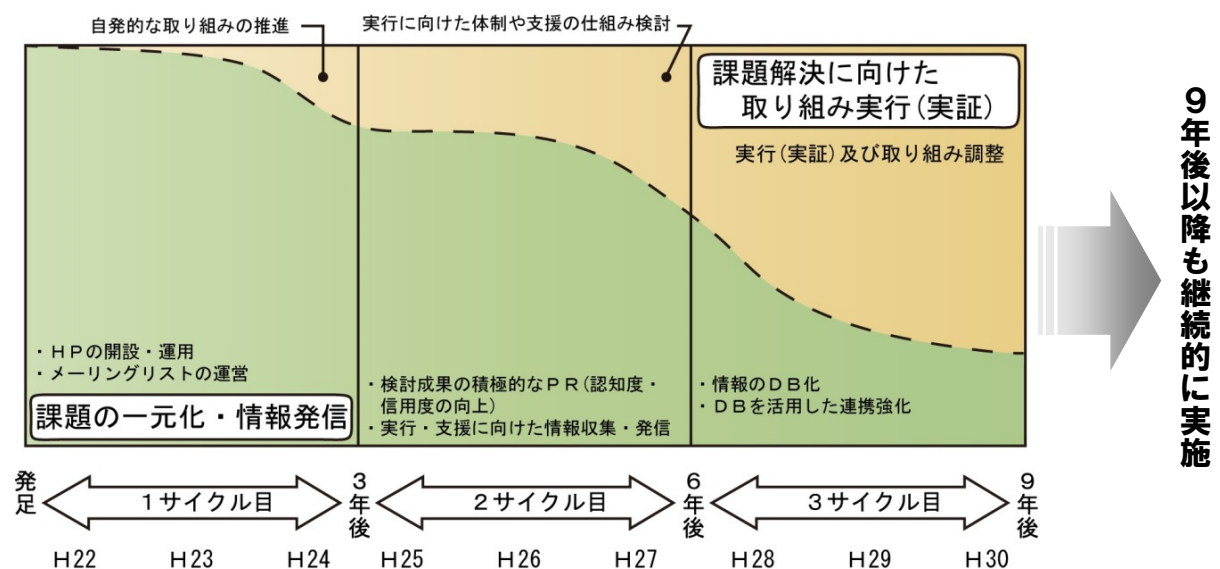
1. 懇談会の目的と運営方針について

1.1 懇談会の目的

- 矢作川流域圏に関係する各組織のネットワーク化を図る
- 流域圏一体化の取り組み及び矢作川の河川整備に関わる情報共有・意見交換を図る

1.2 懇談会の運営方針

- 懇談会は、3年に1サイクルで総括を行いながら運営
- 来年度からは、3サイクル目の「課題解決に向けた取り組み実行（実証）」へシフト



2. 海部会の今後の3ヶ年の目標

活動にあたっては、「矢作川水系河川整備計画」に基づき、調和のとれた矢作川流域圏の実現に向け、学識者、関係団体、関係行政機関がそれぞれの役割について認識を持ち、互いに連携して諸課題の解決に取り組むこととする。

今年の活動における課題や意見から、今後3ヶ年の目標（案）を以下とする。

(3ヶ年の目標)

- 山部会、川部会との合同WGの場を年1回以上は設置するとともに、会員同士の交流を深め、部会間の各会員が協働して具体的な活動を実践する。
- 矢作川をフィールドとして環境活動を実践している団体、個人の方には本懇談会活動への参加を依頼し、同志の輪を広げる。
- 矢作川流域の山、川、海で活動する人、団体が気軽に集まることができ、みんなで情報を共有し、外部に発信することができる活動拠点の場をつくる。

3. テーマ別の運営方針と活動目標

3.1 ごみ・流木問題

○流域内一斉調査およびごみマップの作成、また愛知県が作成したについて海ごみ学習プログラムに活用方法について、山部会、川部会および関係美化団体等との協働実施体制を検討し、具体化に向けた働きかけを行う。

3.2 豊かな海の生物調査

○東幡豆干潟造成箇所モニタリング結果をもとに、造成干潟の整備効果について整理し、外部への情報発信方法および実施体制について検討する。

○新たな干潟造成箇所の整備に向けて、関係機関との調整を図る。

3.3 海と人との絆再生

- ・小学生を対象とした啓発イベントの開催にむけて、関係機関との調整をふまえ実施主体および体制を検討するとともに、イベントの具体的項目について検討する。
- ・「奥矢作森林フェスティバル」への参加を契機に、懇談会主体の流域連携に関するイベントについて、各部会と連携し、流域圏懇談会の情報発信を目的とした関連企画への参画を進める。

3.4 干潟・ヨシ再生

○「砂の駅」構想の具体化について、広域サイクリング構想とも関連させて、今後話し合いを進めていく。

○ダム堆積土砂、河川内堆積土砂等の活用について、再度干潟造成を行いたい。また、港湾への干潟整備については、今後とも関係機関の調整状況を注視しつつ、その進捗が図れるよう出来ることを行っていく。

○「藻場・干潟ビジョン」との連携について、関係機関の調整状況を注視しつつ具体化について話し合っていく。

4. 流域連携テーマの活動計画

流域連携テーマについては、昨年度の第5回全体会議以降「ごみ・流木」、「土砂」、「木づかい」に関する活動を山・川・海の各WGにおいて実施している。今後の活動計画については、市民会議を早急に開催し、流域間交流イベントの開催等の取組みを含めて意見交換を行う。